

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は、認知症を理解することを目的とした学習会を開催・参加しBS法とKJ法を用いて理念作りを行なった。入居者やご家族様の思いを反映し、事業所の地域に根付いてという理念に基づき当施設の理念としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、管理者と職員が参加し作り上げたものであり、理念を共有しそれを目標に日々取り組んでいる。毎日の申し送りの中や定期ミーティングの場を活用し、方針や取り組むべき目標を具体的に伝達している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	契約時に理念の説明をし、玄関に掲示している。訪れた人や入居者、誰もが目にすることが出来るようにしている。また、場合によっては、分かり易く説明をしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設の畑で収穫した野菜等を、入居者と職員が一緒におすそ分けをするなどし、逆に頂いたこともあり関係ができてつある。	○	職員は常に笑顔で心がけ、積極的に隣近所の人にか声をかけるようにし、お茶の時間に招けるような馴染みの関係を築いていけるようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の教育機関との行事や、自治会との納涼祭の開催等を実施し、地元の人々と交流することに努めている。	○	入居者と共に、地域のゴミ拾い等をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>入居者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	今後、地域の人に向けて認知症に関する情報提供や、介護教室などを検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	現在は申請代行をいなの里に依頼しているが、今度、どんぐり村職員が実施し市町村担当者との情報の共有をしていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	伝達研修の開催が遅れているため職員全員の学習まで至っていない。伝達研修の早期開催及び関連事業所開催のOJTを活用し、職員全員の知識習得に努める。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、内容に関して十分な知識を持っている管理者が行っており、入居者やご家族の不安や疑問点をお伺いしている。一番の不安は入院・退所時のことであり、入居者やご家族様が安心して頂けるよう十分な説明をさせて頂き了解を頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に認知症ケアの研修に参加し知識の習得に努め、日頃から入居者の思いに気付けるケアに心がけ、カンファレンスや面会時、運営推進会議などで意見や改善状況等を報告している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各入居者に担当職員を配置しており、暮らしぶりや健康状態、金銭や消耗品管理について、ご家族様に対して電話や面会時にご連絡・ご報告させて頂いている。また、施設での暮らしぶりや取り組みが分かりやすい様に、写真等を取り入れた広報誌を定期的に発行し、郵送させて頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に情報交換なども含めて家族への配慮に努め、話しやすい雰囲気作りに心掛けている。またケアプランのカンファレンスや運営推進会議等で意見や要望を尋ねて運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期面接（2回／年）や、親睦会等を通して、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。1人ひとりの意見に耳を傾け、ケアの質の向上や運営に活かすように取り組んでいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	併設の指定認知症対応型通所介護との連携を図り、職員の配置や業務に関するの一体化を目指し取り組んでいる。現在のところ、入居者やご家族の状況の変化や要望に対して、柔軟にローテーションを組み対応ができています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の高齢者1人ひとりに合わせたコミュニケーションの技法を使い分け、困っていること、不安なこと、求めていること等を理解できるよう努めている。声掛けは前方から視線を合わせたり、入居者のペースに合わせてじっくりと聴く姿勢を作っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申し込みの面会時から積極的に職員から話しかけ、信頼関係が築けるように働きかけている。窓口を管理者や担当者を中心として家族の意見や要望をしっかりと受けとめて検討している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があれば、相談員や管理者が訪問し、本人、家族と直接面接・調査を行い、職員全員でホームでの生活が適しているかどうかなどの話し合いをしている。利用にあたっては、充分検討した上で決定している。場合によっては介護保険の申請、ケアマネジャーの介入や他のサービスの紹介なども行なっている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前には併設の認知症対応型通所介護事業所を使用している場合など、意識的にグループホームに行っていたり、ご家族様と一緒に見学や説明なども積極的に実施している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事前の情報を収集し、支援することはもちろんだが、共に暮らしていく中で、ご本人に教えてもらうことや学ぶことがとても多くある。また、その中で支えってもらったり互いに支えあったりとの関係が出来ている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族から本人の生活歴や生活、好んでいること等を情報収集しながら家族の思いを直接聞き出し、思いを受けとめ共感することで家族との信頼関係を築き、共に入居者を支えていく関係性づくりにつとめている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族の関係と、家族と本人の双方の思いを理解した上で、より良い関係が築いていけるようにきっかけを作ったり、家族に認知症についての説明や共に考えていけるようにアプローチをしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅が近くの入居者は、職員と一緒に庭の草取りに出掛けたり、併設の指定認知症対応型通所介護をご利用の古くからの友人に会いに行ったり、居室に招いてお茶を飲んだり出来るように支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の個々の性格や社交性をふまえ、入居者同士の組み合わせや食事の位置等の工夫をし、気の合う仲間が出来るように手伝うなど関係を深める支援をしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者がホームに適切でなく退去する場合、本人やご家族が困らないように関連施設との連携を図り、相談・連絡・送迎など最後まで責任を持ち実施している。また、その他の理由を含む退居後も、訪問や電話での連絡をとるなどし、本人やご家族との関係を継続させている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の個々の生活リズム、生活歴等を把握した上で1人ひとりに接している。自己決定や選択の機会を増やし、本人のペースに合わせ接している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートパックを活用した情報収集とアセスメントを行い、普段の会話や日常の活動を意識的に行なっている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式シートパックを活用して職員全員が入居者の出来る事、出来ない事を見極めている。手工芸、畑仕事、台所仕事、洗濯干し等の作業は一緒に行なうか見守る程度にし、出来た事で自身につなげるようにしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人がどうしたいのか、どうなりたいのかを一番に考え、本人やご家族を交えて話し合いを実施している。また、その思いや意見をアセスメントし、認知症に対する取り組みと交え介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状況に変化があった場合は、介護計画の期間内であっても、ご家族や職員間で話し合いの場を持ち、十分な検討を行なった上で新たな計画を作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録の他に、職員間での情報共有に努めるため連絡ノートを使用している。連絡ノートにはちょっとした気づき等も記載し、それをもとに話し合いの場に活用しケアの内容や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の指定認知症対応型通所介護事業との連携を図り、逆デイ等を実施している。また、職員も顔なじみの関係ができており、混乱などはあまり見られていない。また、ターミナルケアでは家族の希望する面会時間や泊りにも応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議には地区の民生委員が参加して下さったり、夏祭りには地域の山車の会の方や区長さんが積極的に協力して下さっている。また、消防訓練時は消防署に連絡し、協力して頂いている。ボランティアに関しては、地域の申し出のあった方を積極的に受け入れしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人様の状況が変化した場合など、ご家族様ともよく話し合い、市内の特別養護老人ホームの相談員に相談したりしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、そのような協力はない。	○	今後運営推進会議などにも包括支援センターの出席などをお願いし、多様化する要望に答えられるような体制を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設には協力医療機関であるクリニックの主治医が往診や臨時での受診にも対応してくれている。また、入居前の他のかかりつけ医の受診をご家族より希望のある方に関しては、綿密な連絡をとり情報を共有し利用者やご家族が困らないように支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隔週で提携病院の主治医に往診して頂き、その方の状況をよく理解して頂いた上で、診断や治療を行なっている。ターミナルケアに関する事などもご家族の意向も踏まえて、先生が関与して下さり看護師と連携し、ご本人、家族の望む医療が受けられている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は、日常の健康管理等の看護業務に留まらず介護現場においても入居者との関係作りに努めていることもあり、介護職員からの相談も気軽に実施できている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族の希望を聞きながら病院との連携を図り、できる限り早く退院出来るように働きかけを行なっている。退院前に家族と共に医師より治療経過や注意事項等の説明を看護師が受け、受け入れ体制を整えている。また、協力病院からの担当医の往診によって連携や情報交換もスムーズにできている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や家族を交えてのカンファレンスの際に、重度化した場合や終末期の施設での看取り指針の説明をし、本人や家族の意見を聞いている。介護職員が看護師や主治医とも連携をとり、本人に関わる職員全員が方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアを行うにあたっては、管理者と看護師がご家族に対して、グループホームと病院での出来る事出来ないこと、メリットとデメリットを説明をし、ご家族に決定をして頂いている。本人に関わる皆で本人を支え、充実したターミナルケアの実践が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人が別の住居に移り住む際には、相談員・管理者・家族・主治医等の本人に関わる関係者で十分な話し合いや情報交換を行なった上で行なっている。退居、移住の際には連絡、相談、調整、送迎等を責任を持って最後まで行なっている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時には、接遇や高齢者への対応を学ぶ機会を設けている。また、入職時は個人情報の取り扱いについて説明を受け、同意書も作成している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の思いや希望を表せるように、話しかける時は前方より1人ひとりの目線に合わせ、ゆっくりとしたペースで話しかけるようにすることを徹底している。また、自分で選んだり決定することが出来るように支援し、1つひとつの事柄を入居者が納得した上で出来るようにしている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1人ひとりのアセスメントをもとに、何をしたいか何が出来かを聴きだし、それが叶うように支援している。自分の思いをうまく伝えられない入居者に対してもアセスメントをもとに、本人の嗜好や今まで行なってきた事柄から、良い表情をされている時の事柄をやってみたりし、再度アセスメントを実施している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ほとんどの方が施設に来る訪問理・美容室を利用しているが、ご家族が面会時にウッドデッキで散髪される方もいる。</p>	<p>○ 近所の理・美容室や、入居者の馴染みのある理・移動美容室の利用への支援をしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理ができる方に関しては、自分の財布を持っていただいている。それ以外の方は、基本的にホーム側で管理をさせていただいているが、買い物や行事等でお金を使う機会を増やし、職員も入居者がお金と関わることでの効果や目的を理解している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは自由にベランダや中庭に出られるように作られている。また、1人ひとりの希望（自宅の様子を見に行きたい、併設のデイサービスに遊びに行きたい、散歩や買い物に行きたい…など）に答えられるように支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者やご家族にアンケートを実施し、希望に沿った外出の支援が出来るように取り組んでいる。また、実施後もアンケートにご協力をいただき、次回への取り組みへとつなげている。	○	「ふるさと訪問」として、入居者のふるさとへ一緒に行けるように企画・実施していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人から手紙が来たりした時は、返事を入居者が出せるように職員が支援している。面会に来る前に電話をくれる家族には、本人に代わったりするなどしてやり取りしている。	○	入居者本人の要望の内容にもよるが、遠方でなかなかお会いできない家族にも電話したい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族はもちろんのこと、古い友人等が訪ねてきてもゆっくり話をしたり共に時間を過ごせるように、居室や居間を利用して頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び管理者は身体拘束の対象となる具体的な行為を施設外研修等で学び、現場に勉強会や資料配布を行いフィードバックしており、職員全員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の外に出たいという思いをいち早く察知し、外に出ていこうとされる時は後ろからそっとついて行き、話しをしながら一緒に帰って来る等している。また、普段から自由に外に出られるように常に中庭を開放し、夕方の帰りたいたいという思いを軽減するために日中逆デイに取り組んでいる。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録等の作業時も入居者の動きが把握できるよう、食堂で行なっている。入居者の所在を常に職員同士声を掛け合い確認しながら、安全に生活が送れるようにしている。また、居室のドアは入居者のプライバシーに配慮しながら所在の有無が確認できるように、1部すりガラスになっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や危険物に関しては、利用者の目や手の届かない所や施錠できる所に置いている。石鹼など異食の危険性があるものに関しては、片付けることで出来なくなってしまうことが出てくるため、異食の危険性を取り除いたうえで工夫して設置している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスク管理の研修や学習会に参加し知識習得に努めている。事故報告により、全ての事故において、発生状況内容分析、今後の対策を記入し、全職員が把握できるようにしている。家族にも報告・相談を行なっている。また、ファイルした事故報告書とヒヤリハットに関して、月に一度定例会議で、事例検討を行ない再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者の急変時、事故発生時に対応できるように、対応方法や技術を学ぶ機会を定期的に設けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の総合訓練を実施。入居者も交えて実施している。	○	今後地元の消防団などにも交えた消防訓練が出来るよう実施して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態に応じて予測されるリスクの説明や、カンファレンスを開催し細めに家族と話し合いを持ち対応している。拘束や鍵かけなどはせず見守りを重視しながら抑圧感のない暮らしが出来る様支援している。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の様子（顔色・表情・行動など）から早期発見できるように職員全員が注意をしている。また、変化やサイン、対応を簡潔に分かりやすく個別の記録用紙・回覧板へ記入し、不安や心配はその都度看護師に報告・相談をしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬情を1つにまとめ、見やすいように冷蔵庫の横にぶら下げるなど工夫している。薬の内容や副作用についても理解できている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘にはすぐに薬を使用するのではなく、日頃から食事にも繊維質のものや乳製品を多く取り入れている。また、散歩や体操も行い、自然排便を促す働きかけを行なっている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1人ひとりの出来る事、出来ない事を把握した上で、十分な支援が出来ている。夕食後は歯磨きを促し、毎日入れ歯洗浄剤にて洗浄している。必要に応じて歯科往診の依頼もしている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の体調によって食事量の低下が見られるときはチェック表を作成し、1日を通して摂取量のバランスが摂れるよう注意している。水分チェック表もあり、職員がそれを見て、少ない時には促したり本人の嗜好品を取り入れるなど工夫している。また、定期的に、栄養士にも献立を見てもらっている。また、回覧板を活用し、情報共有できている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員・入居者ともにインフルエンザの予防接種を行ったり、外出後の手洗いやうがいを行なうように支援している。感染委員会の設置の他、研修会にも参加するなどして、知識の拾得と予防・早期発見・対応が出来るように取り組んでいる。入居前に診療情報として感染症の有無について検査する事の同意を家族から得ている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ホーム内を清潔に保つために職員全員で実施方法を決め、効率良く行なっている。布巾・まな板は夕食の片づけが済んでからたらいに漂白液を入れ、つけて入居者の手の届かない所へ置いている。冷蔵庫は買い物に行く前の食品の少ない状態の時を利用して週1回清掃している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花を飾ったり中庭に草花を植えるなどして、家庭的な雰囲気を作っている。また、施設を抜けて散歩される近所の方々も、足を止めて花を見ていたり、中庭に居る入居者や職員とも雑談することが多い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	近代的なものではなく、入居者にとって馴染みのある家具や小物を配置している。新品の物をそろえるのではなく、極力少し古い感じのする物をリサイクルショップなどを利用しそろえて配置している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間の間にアコーディオンカーテンを設置し、空間を仕切れるようにしている。中庭にも、ベンチや喫煙所を設け、入居者が自由に居場所を選択できるよう配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

どんぐり荘では、地域共生を目指しながら、認知症高齢者に対する様々な取り組みを行なっています。どんぐり荘が1つの家庭としての役割を果たすことで、継続的な生活の安定とQOLの向上を図ることを目的とした学童の受け入れに取り組んでいます。その人が一番必要とされて輝いていた時代を考え、子供が自然に出入りすることでかつての家庭での役割を思い出したり、子供との関わりの中で愛情を注いだりする等の変化を期待しながら、出来る事が増えたり結果的に周辺症状の改善やその人らしさを引き出す働きかけをしています。併設の認知症対応型通所介護事業のどんぐり村集会所とも柔軟な連携を図り、介護予防利用者の出店する店に買い物に行くなどお金との関わりを持つ機会を多く取り入れたり、グループホームの入居者様がデイサービスに通う「逆デイ」などに取り組んでいます。活動内容は、定期的にご家族様に送る「どんぐりたより」や運営推進会議の中で報告をさせて頂いており、このような活動に取り組んでいながら地域の方々にご理解を頂き地域共生に向けて取り組んでいます。